

学級活動で活用する ～よりよい学校生活、集団生活の充実～

柳井市立余田小学校 中西 淳

1 本場面におけるポイント

- 愛校心醸成の基盤を創ること
学校のよさや伝統を再確認し、それを受け継ぐ者としての在り方を考えさせる。
- 高学年としての自覚を促すこと
学校内における自治的活動の中で、高学年としての自分に与えられた役割とその大切さを再確認させる。
- 自己有用感を実感できる自発的・自治的活動の展開
自分のよさや興味を生かした自発的・自治的な活動の充実を図り、その中で確かな自己有用感を高めるようにする。

2 授業の実際

1 題材名「よりよい校風を求めて～ぼくたちらしい余田小学校をつくろう～」

2 ねらい

自分のよさや興味を生かした自発的・自治的活動を展開することにより、高学年として自分に与えられた役割を再確認するとともに、「母校に自分たちの生きた証」を新たな校風として担っていく喜びを味わう。

3 展開

(1) 導入 再確認！ぼくの「余田小学校のイメージ」

教師：『余田小学校は、〇〇な学校です』 あなたは、〇〇に何を入れますか？

A児：「元気な学校」「思いやりがある学校」「明るい学校」

B児：「いじめのない学校」「小さいけど活気がある学校」「地域の宝物の学校」

C児：「楽しい学校」「よくあいさつする学校」「みんなで遊ぶ学校」

□ 指導上の留意点・支援

初発問は、自由な発想・観点から自分なりの学校像を表現できるようにオープンクエスチョン形式で行う。ただし、後の学習展開に結び付けやすいようにキーワード化しておく。

自分なりのキーワードを出させた後に、「私たちの道徳」のP.161を用い、自校について「自慢できるところと好きのところ」という2観点から分析させる。その結果を話し合わせることにより、「自慢できるところと好きのところ」が実はキーワードの根拠であること、また、それらは長い年月をかけ自分たちや先輩・先生方が創り、受け継いできた伝統・校風であるという視点をもたせたい。



自慢できるところや好きどころが、キーワードの根拠でもあり、先輩方から受け継いできた校風・伝統でもあるんだね。



小学校5・6年用P.161

(2) 展開 つくろう、ぼくたちらしい余田小学校を！余田っ子カンパニー大作戦

教師：『余田小学校を、〇〇な学校にしたい！』 あなたは、〇〇に何を入れますか？
 A児：「もっと元気な学校にしたい。」「みんなが何でも話せる学校」
 B児：「1年生がのびのびできる学校」「先生も子どもも笑顔の学校」
 C児：「いつでも何かワクワクドキドキするような楽しいことがある学校」

□ 指導上の留意点・支援
 ここでは、「〇〇な学校にしたい」という視点から新しい学校像をイメージさせることにより、新たな校風と伝統の担い手が自分であるという自覚に立った発言を促したい。また、そのために自分が何をするか、何ができるかということをも具体化させながら、自分たちのよさや興味を生かした実践的活動（自己有用感の高めることをねらった自発的・自治的活動）へと結び付けていきたい。
 今回の学習で児童は、「自分たちの手でもっと元気な余田小学校をつくりたい」という願いをもった。その実現のために毎週木曜日の昼休みに各々の特技や趣味を生かしたイベント（会社）を企画（経営）し、全校を招待することによって、母校に新たな活気と絆を生み出そうと計画した。



月の会での宣伝活動（左）イラスト屋の活動（右）



自分の特技や趣味を生かした会社を経営して、下級生を楽しませてあげたいな。それで学校が元気になればうれしいな。

(3) 終末 「みんなが主役&自分も楽しい」そんな余田っ子カンパニーへ

教師：「どちらの声も本物です。さあ、どうする？6年生！」

(〇年生の日記から) 余田っ子カンパニー... (〇年生の日記から) 余田っ子カンパニー...

□ 指導上の留意点・支援
 実践的活動が軌道に乗り、企画・運営に慣れてくるにつれて、趣旨の逸脱やマンネリ化といった問題が生じてくる。これらを児童自身に「何とかして自己解決を図るべき問題」としてうまく対峙させることが重要と考える。
 今回の取組においては、第1回目の余田っ子カンパニーの運営時より、下級生の日記を「下級生の生の声」として紹介することによって、6年生児童の活躍の価値付けと意欲の継続化を図ってきた。その流れを汲み、自然な形で6年生児童に対する批判的意見を紹介し、それに対する正直な思いと6年生としてとるべき行動について意見を出し合った。

3 実践を振り返って

愛校心や高学年としての役割の自覚と責任感を育むには、実践的活動を欠くことはできない。ただ、その活動も児童自身の興味・関心、自主性に基づくもの、かつ自己有用感を高めるものでなければ効果は薄くなる。
 「私たちの道徳」は、それらの大切さが児童にとって等身大の文章と写真・問いかけ等によりさりげなく示されており、その活用によって児童の素直な思いを引き出すことができると考える。

